

### 【意見】

福島原発の影響による放射能汚染が日々深刻化している状況でございますが、国が公表に消極的なため自治体や個人での線量計測が盛んに行われていることはご存知と思います。群馬大学の早川由紀夫教授がまとめた関東・東北300km圏内の汚染マップで川場、沼田周辺が群馬県のホットスポットと言う事が明らかになりました。それをもとに雑誌社が独自に調査した結果、さらだパーク沼田の芝の線量が0.6マイクロシーベルト/時という「非難を考慮する数値」が計測されました。川場村の川場スキー場に向かう峠道では福島原発付近と同等の2.27という最も高い数値が検出されてしまいました。私の義父は沼田で農業を趣味でやっております、沼田に出向く都度、大量に自作の野菜をおすそ分けしてくれます。沼田の線量を知った今、断るに断れなく困っております。10才と8才の娘にそれらを食べさせることに抵抗を感じております。市長のホームページでの報告は3月で、まだ沼田が汚染されていないときのものです。今現在の最新情報を群馬のホットスポットである沼田市は公表すべきだと思います。食べてしまった後で分かった場合の責任の追及は免れないと思います。市民レベルで分かっている事ですから……。私の希望はJ Aと協力して野菜・果物の汚染濃度を調査し、本当に安全なのかを市民、県民に伝えることです。市民の健康と安全を守ることは行政の基本的な仕事であると思うからです。公表による被害よりも出回った後の被害の方が、大変なことになると思います。どうぞ宜しくお願いいたします。

男：40代：市外在住

### 【回答】

今回の原子力発電所事故による放射性物質濃度の測定につきましては、県と連携してその対応を行っているところであります。

放射線量の安全の目安とされているのは、国際放射線防護委員会（ICRP）が示す「一般公衆における線量制限」で1ミリシーベルト/年という基準があります。文部科学省は、原子力災害対策本部の助言で、4月19日「福島県内の学校等の校舎・校庭の利用判断における暫定的考え方」として8月末までの暫定期間で、1-20ミリシーベルト/年と3.8マイクロシーベルト/時の目安を、さらに、5月27日には、年間1ミリシーベルト以下を目指す見解を追加で示しました。この基準が一般的に示されている唯一の値で、子どもの放射線に対する感受性、内部被ばくを考慮した上で、3.8マイクロシーベルト/時という目安としたということです。

沼田市内の放射線量については、5月末から6月中旬にかけて保育所、幼稚園、小中学校等の放射線量測定を行った結果が、6月30日付けで群馬県から公表されました。市内の施設は、県内では高い値を示しているものの、3.8マイクロシーベルト/時という基準値内に収まっていますし、県内大学の専門家から安全であるとの見解を得ています。また、測定地点も市内46施設で行われていて、地域ごとにある程度類推できるのではないかと考えています。しかし、前述の安全性の目安も8月末までの暫定基準であることから、本市も空間放射線量測定を予定しており、結果を公表していく考えであります。

農産物の安全性につきましては、市では、農産物に含まれる放射性物質の検査を県と連携のもとに実施しており、7月27日の検査では、新たに本市のパブリカやプラム、桃がサンプルとして抽出され、放射性物質濃度は暫定規制値以下でありまし

た。既に県の検査は25回実施されており、本市の農産物につきましても、安全性が確認されているところであります。

また、農地の土壌検査につきましても、県内を幾つかのブロックに分けて、県が主体となり実施しているところであります。

今後につきましても、県やJAなどの関係機関と連携を図り、農産物等の定期的な検査が予定されておりますので、検査結果を市民の皆様へ迅速に情報提供を行ってまいります。

※ 市ホームページ「東日本大震災の沼田市情報」の中で、「市内の放射線量の測定結果について－放射性物質に係る県産農産物の安全性について」をご覧ください。

担当：市民部環境課・経済部農林農林課